

令和3年度 発達支援相談事業経過報告 (令和3年12月末時点)

※R2年度実績数はR2年12月末時点

1. 早期発見、早期フォロー体制の継続

◎5つの専門相談

発達相談(心理士による相談)・OT相談(作業療法士による相談)・ことばの相談(言語聴覚士による相談)・発達クリニック及び発達支援クリニック(小児科医による相談)を実施。

作業療法士1名が育児休暇から復帰し、昨年度よりもケース数は増加(表1)。

今年度は就学後のケース数が昨年度よりも1.7倍(33人⇒57人)になり、就学後のフォローも充実している(表2)。

心理士2名体制で実施。発達相談の件数も昨年度より増えている。今年度は新型コロナウイルス感染防止の事業中止期間が無かったことに加え、昨年度新規採用の1名が、今年度は年度当初より相談事業を担当し、多くのケースを見ていることによる。

◎遊びの教室(小集団親子教室:就園前の児童と保護者が対象)

前期・後期とも全11回の開催予定で、12月末までに後期の6回目まで実施。

1クラスでの開催で計9組の登録があり、1組は後期からプレ幼稚園入園、1組はコロナ対策のための自粛で、現在7組の親子が参加中。

◎のびのび教室(保護者が子どもの行動の見方を学ぶプログラム;ペアレントトレーニング)

発達支援相談を利用している保護者に案内し、3クール(1クールに1名ずつ、計3名)実施中。

受講後のフォロー会には、集団と個別の二つの形で実施し、計5名の参加があった。

◎母子保健事業との連携

乳幼児健診を中心に連携を実施。各相談・遊びの教室・園巡回相談・専門機関への連携等、保健医療課と協力しながら早期発見・早期支援を実施している。

(表1) 発達支援相談利用者数

年度	実人数			相談別人数											
	男子	女子	合計	発達相談		OT相談		言語相談		発達クリニック		発達支援クリニック		相談参加	
				実	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延
R2年度	172	60	232	138	148	144	171	43	56	4	4	4	10	333	389
R3年度	208	74	282	164	205	180	227	53	80	4	5	3	6	404	523

(表2) 年齢別相談実人数

	0才児	1才児	2才児	3才児	4才児	5才児	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	中1	中2	中3	高1	高2	高3
	R2年度	8	14	27	47	44	59	14	7	3	5	1	1	1	1	0	0	0
(割合)	3.4%	6.0%	11.6%	20.3%	19.0%	25.4%	6.0%	3.0%	1.3%	2.2%	0.4%	0.4%	0.4%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	85.8%						14.2%											
R3年度	5	11	37	56	50	66	28	8	7	5	4	2	0	1	2	0	0	0
(割合)	1.8%	3.9%	13.1%	19.9%	17.7%	23.4%	9.9%	2.8%	2.5%	1.8%	1.4%	0.7%	0.0%	0.4%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	79.8%						20.2%											

(表3)相談経路別実人数

	経過者	保護者	健診						その他					
			健診	保健師	保・幼	学校	保健所	乳児前期		乳児後期	1.8健診	2.5健診	3.5健診	
R2年度	166	4	43	2	12	1	0	4	R2年度	0	5	9	14	15
(割合)	71.6%	1.7%	18.5%	0.9%	5.2%	0.4%	0.0%	1.7%	(割合)	0.0%	11.6%	20.9%	32.6%	34.9%
R3年度	165	13	61	3	29	3	0	8	R3年度	0	2	9	25	25
(割合)	58.5%	4.6%	21.6%	1.1%	10.3%	1.1%	0.0%	2.8%	(割合)	0.0%	3.3%	14.8%	41.0%	41.0%

(表4)発達支援相談の最終フォロー人数

	相談継続	終了	
		医療紹介	終了
R2年度	137	14	81
(割合)	59.1%	6.0%	34.9%
R3年度	191	27	64
(割合)	67.7%	9.6%	22.7%

2. 児童発達支援事業の体制整備

関係機関と連携をとりながら、随時受け入れ体制の調整を行った。

児童発達支援事業とこども発達・療育支援輸送事業についてはつくし園より報告(別紙資料参照)

療育指導員の人材育成支援についてはセンター職員(OT,心理士)による勉強会3回と、OTが療育場面に入り実践的な助言を行う支援を18回行った。(2回/月平均)

その他、別紙資料参照(つくし園より報告)

花ノ木医療福祉センター委託による南丹市個別療育事業も2名の利用児があった。(表5)

(表5)花ノ木医療福祉センターでの個別児童発達支援事業の利用状況

	実	延	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
R2年度	2	60	1	0	0	1
R3年度	2	67	0	1	0	1

3. 保育所・幼稚園巡回相談事業と学童期への連携の継続

今年度南丹のぞみ園(園部)が新設されたことで、園巡回実施回数が増加(表6)。

(表6)園巡回相談数

	園部		八木		日吉		美山		合計		運動プログラム
	園数(延)	児延数	園数(延)	児延数	園数(延)	児延数	園数(延)	児延数	園数(延)	児延数	
R2年度	12	86	4	13	6	30	5	24	27	153	18
R3年度	19	98	4	12	6	26	5	23	34	159	16

(表7)学童期への連携数 (個別相談後の新小学校・中学校入学児童ケース連携・参観:小学校及び放課後児童クラブ)

	合計	
	巡回数(延)	児童数(延)
R2年度	27	141
R3年度	29	156

4. 就学後の支援体制の継続

放課後児童クラブ、学校巡回、検査結果連携を実施。実績数は昨年度より回数は微増し、児童数は増えている(表8)。2年生の保護者からの依頼が2件あり、参観したクラスの子供たちも含めて連携を取ったことで、児童数が大きく増えている。

(表8) 就学後支援数 (新小学校・中学校入学児童以外)

	合計	
	巡回数(延)	児童数(延)
R2年度	10	19
R3年度	14	34

5. 関係機関との連携の継続

支援ファイルと移行支援シートを配布。
病院同伴受診、ケース会議等を通じて情報共有を実施。

(表9) 支援ファイル配布数

	中学生	小学生	5歳児	4歳児	3歳児	2歳児	1歳児	計
R2年配布数	0	1	6	0	0	0	0	7
R3年配布数	0	0	3	0	0	0	0	3
全保有数	7	98	37	9	2	1	0	154

(表10) 移行支援シート活用数

	保育所→小学校	小学校→中学校	中学校→高校
R2年配布数	6	1	6
R3年配布数	3	6	0

5. その他(講師関係)

4月	16日:つくし園
7月	30日:つくし園
9月	16日:つくし園/24日:すこやかセンター0歳児広場
10月	5日:園部保育所スキルアップ講座/7日:殿田小支援級/14日:城南保育所スキルアップ講座
	15日:みやま保育所保護者会(2歳児)/27日:ファミサポ講習会
11月	5日:通級研修会/18日:みやま保育所保護者会(0.1歳児)